

滋賀県立虎姫高等学校 I B D P 言語方針

H31(2019).2.25 作成

R5(2023).8.31 最終更新

はじめに

本校の教育目標には、「我が国の発展と国際社会の繁栄に貢献できる人間を育成する」と謳われており、これに基づき、地域、国家、国際社会の状況を正しく理解し、将来グローバルな視野をもってグローバルに活躍できる人材を育てる教育活動を実践しています。この目標を達成するには、言語が重要なツールであるという認識のもと、その習得はもちろんのこと、背景にある文化の多様性を正しく理解させる必要があります。本校では、生徒が自らすすんで言語活動や探究活動を行えるようなカリキュラムを提供し、世界のさまざまな文化や価値観に触れながら、日本語および英語で正確に、また創造的に考え、自らの主張を表現する力を身につけられるよう支援します。

理念

本校では、言語教育を通じた「グローバルな視野と、豊かな国際感覚を身につけた人間の育成」を目指しています。その目標の実現のために、英語は、具体的なコミュニケーションツールの一つとして重要な存在であります。

本校では、生徒が外国人教員と交流したり、1年次から海外留学にチャレンジしたりできるような取組みを行っています。

教員も生徒も、語学学習は生涯学習であるとの認識の下に、カリキュラムを通して英語力やコミュニケーション力を育成するだけでなく、教育課程外の様々な体験を通して外国語や異文化に触れ、グローバルな舞台で活躍する人材に必要な資質を身につけていきます。

もちろん、その前提として、言語を学ぶ際にはその背景にある文化や歴史について理解することが重要であり、その関係性が理解できてはじめて言語について深く学ぶことができ、ひいては母語や自国の文化・伝統を大切にする姿勢が醸成されと考えます。

生徒の状況

本校は学校教育法第一条に定められ、また滋賀県によって設置された公立の全日制普通科高校です。約 600 名の生徒が在籍し、ほぼすべての生徒が日本語を母語とし、校内や家庭におけるコミュニケーションで使用される言語は日本語で、授業も日本語で実施されています。この点に関して問題を抱えている生徒はいません。

授業における使用言語とレベルおよび指導言語のサポート

本校では、日本語のデュアルランゲージ DP プログラムを提供します。そのため、Group2 「言語習得」の English B と Group 3 「個人と社会」の Environmental Systems and Societies の2科目を英語で提供し、それ以外の科目については日本語で授業が行われます。日本語で行われる授業について特別な支援を必要とする生徒は今のところいませんが、今後生徒から提出された言語プロフィールに応じて個別指導等を検討します。英語で実施される授業に関しては、担当教員は生徒のニーズにあわせ

た教材選定、課題設定を心がけ、生徒が自分の目標やレベルに応じて自学自習できるよう支援します。また、生徒の英語運用能力を高めるために、必要に応じて放課後や長期休業期間などを利用して補充講座を開設したり、語学学習の助けとなるサイトを紹介したりするなど、支援します。

本校で提供されている IB 科目、授業で使われる言語および授業のレベルについては、以下の表に示します。

GROUP	IB 科目	使用言語	レベル
1 言語と文学	文学 A	日本語	HL/SL
2 言語習得	英語 B	英語	HL/SL
3 個人と社会	環境システムと社会	英語	SL
	歴史	日本語	HL
4 科学	化学	日本語	HL/SL
	物理	日本語	HL
	生物	日本語	HL
5 数学	数学	日本語	HL/SL

Group6 の代替として、歴史、物理、生物を開講する。

母語の支援

本校の教育方針には、「博愛精神を育み、異なる文化や価値観を尊び、様々な人と共生できる」人材の育成が謳われており、日本語以外を母語とする生徒を受け入れた場合にも、この方針にのっとり、全校をあげて、多様な文化が尊重され、互いに認め合える雰囲気づくりを醸成するために、生徒の母語によるプロジェクト、近隣の小中学校との交流や地域との連携などを通じて、生徒のアイデンティティ確立をサポートします。また、言語のもつ文化的・歴史的背景にも敬意を払い、地理歴史・公民科の授業や総合的な探究の時間など、すべての教育活動を通じて、自国の文化だけでなく異文化理解に努めます。

Language A と母語の学力伸長

言語は単なるコミュニケーションツールにとどまらず、生徒の創造力や豊かな心を育む上でも重要な役割を果たすことを理解しています。また、本校は日本の学校であり、生徒の学習や生活のための言語は日本語であるため、プログラムはデュアルランゲージで行い、グループ 1（プログラムを導入する国の言語）言語 A「文学（HL/SL）」、及びグループ 4・5 で日本語を教授の際の使用言語とします。言語 A は、IB 生徒全員が HL または SL を履修し、文学作品等の研究を通じて生徒の文学的素養や感受性を高め、さらには母語の運用能力を高めるために、生徒が論理的に考え、適切な言葉で表現する活動や、そのために必要とされる豊富な語彙を身につけさせるための様々なツールを活用します。図書館司書との連携により、レポートやエッセイ作成に必要な幅広いジャンルの文献を配備しますが、場合によっては大学等も含め外部の図書館の蔵書も利用できるシステムを構築しています。

日本語以外の言語を母語としている生徒は、日本語理解の必要なレベルが証明されれば、Japanese A 文学(HL)を選択することができます。

Language B と外国語教育

言語は異文化理解のための重要なツールであることを理解しており、本校では国際語として英語をすべての生徒が学習しています。IB 生徒は全員が English B(HL/SL)を履修し、この科目を通じて生徒はコミュニケーション能力を高め、また外国の文学や文化を学び、自身のアイデンティティを形成しながら同時に異なる文化を尊重する態度が育まれることを期待します。英語を母国語とする教員やALT（外国語指導助手）の配置により、より多くの生徒が英語に触れ、国際的な視野を広げることができます。本校は県教育委員会の提供するプログラムにより、異文化交流・異文化理解のための交換留学や研修旅行にも積極的に生徒を参加させています。また、海外修学旅行（世界情勢によっては代替プログラム）に全員が参加し、体験を通して英語を使う機会を提供します。

教育研修

DP プログラムに携わる教職員は、言語教育に積極的に参加します。そのために、管理職や IB 教員、図書館司書などすべての教職員が、言語指導に関する教育技術を高めるため、定期的に会議を実施し、切磋琢磨します。

DP コーディネーターは、教員やスタッフが必要な IB 研修を受けたり、セミナーに参加したり、あるいは、教科横断的に集まって研修を行ったりして言語教育への理解を深め、授業の中でそれを実践できるような機会を保証します。教職員が、定期的に集まり情報交換・情報共有することは、生徒の言語学習に関する知識や指導方法についての理解を深めるための計画立案や目標設定に必須かつ有益です。生徒の言語スキル向上のための指導案作成や目標設定などに関する会議や振り返りなども、授業直後や放課後などに適宜実施します。

学習支援・図書館と情報サービス

本校は、生徒が情報リテラシーのスキルを修得できるようにし、適切な学習資料、調査援助、学術論文や学問の誠実性に関する指導等にアクセスできるようにして、生徒の学習と教員の研修を支援します。

図書館は、DP プログラムを支援する書籍、新聞、雑誌などを準備し、印刷物、学術記事、その他の研究資料を含むデータベースを、日本語と英語で利用できるようにします。また、自習を行う生徒のために柔軟に対応できるよう、資料の準備や支援を行います。

図書館司書や英語を母国語とする教員やALT(外国語指導助手)が生徒の必要に応じて援助を行います。図書館は、平日の午前8時から16時40分まで開館しており、閉館後も18時までは自習室として使うことができます。

地域と保護者の参加と方針の周知

本校は、教室以外でも教育が行われることを十分認識しています。地域および保護者には、生徒の母語の言語能力を維持し、また学校外で外国語を使用することを励ましたり、支援したりして、地域ぐるみで言語学習をサポートする役割を果たしてもらいます。また、地域リソースを積極的に活用します。

本校は、言語方針を説明した資料やその他の利用できる資料を、日本語と英語で提

供して、保護者を支援します。資料は、本校ホームページにも掲載し、必要に応じて保護者に配付します。

虎姫高等学校の生徒、保護者、学校関係者、周辺の地域住民は、日本語と英語で掲載された言語方針にアクセスでき、また学校やコーディネーター、TIBLO（Torahime IB Launch Office）に連絡し、言語方針の見直しや改訂に関する意見を述べることができます。

言語方針見直しの課程

虎姫高等学校 IB 言語方針は、2018 年に TIBLO メンバーにより策定され、2023 年 8 月に見直しました。今後も TIBLO を中心にこの方針を進化させていかなければなりません。随時必要な改訂を加え、成文化させてゆきます。

参考文献

- International Baccalaureate Organization (2017)
DP: From principles into practice (訳) (2020) DP：原則から実践へ
- International Baccalaureate Organization (2008)
Guidelines for developing a school language policy (訳) (2011) 学内言語方針の策定ガイドライン
- International Baccalaureate Organization (2008)
Learning in a language other than mother tongue (訳) (2014) 母語以外の言語による IB プログラム学習

Shiga Prefectural Torahime High School

IBDP Language Policy

H31(2019).2.25 formulated

R5(2023).8.31 last updated

Introduction

The educational goal of our school states "to guide and nurture our students to become global-minded citizens who will contribute to local development or global prosperity." Based on this goal, we are implementing educational activities to foster human resources who can correctly understand local, national, and international situations and who will be active both globally and locally with a global perspective in the future. In order to achieve this goal, we recognize that language is an important tool, and it is necessary not only to master it, but also to give students a correct understanding of the cultural diversity that lies behind it. We provide a curriculum that encourages students to engage in language and exploratory activities on their own initiative, and helps them to acquire the ability to think and express themselves accurately and creatively in Japanese and English, while being exposed to a variety of cultures and values from around the world.

Principles

Our school aims to "nurture individuals with a global perspective and a rich international outlook" through language education. To realize this goal, English is one of the most important concrete communication tools.

At our school, we are making efforts to enable students to interact with foreign teachers and to take on the challenge of studying abroad from their first year.

Recognizing that language learning is a lifelong learning experience, both teachers and students not only develop English language and communication skills through the curriculum, but also acquire the qualities necessary to be active on the global stage through exposure to foreign languages and cultures through a variety of experiences outside the curriculum.

Of course, as a prerequisite for learning a language, it is important to understand the culture and history behind the language, and we believe that only by understanding the relationship between these two aspects will students be able to learn the language in depth, which in turn will foster an attitude of respect for their native language and their own culture and traditions.

Status of Students

The school is a public, full-time, regular high school established by the Shiga Prefectural Government as stipulated in Article 1 of the School Education Law. The school has approximately 600 students, almost all of whom are native speakers of

Japanese, and the language used for communication within the school and at home is Japanese, and classes are conducted in Japanese. No students have any problems in this regard.

Languages and levels of instruction in class and support for language of instruction

The school will offer a dual language DP program in Japanese. Therefore, two courses, English B in Group 2 "Language Acquisition" and Environmental Systems and Societies in Group 3 "Individuals and Society," will be offered in English, while the other courses will be taught in Japanese. There are currently no students who require special support for classes conducted in Japanese, but we will consider providing individualized instruction based on the language profiles submitted by the students. For classes conducted in English, teachers will select teaching materials and assignments that meet the needs of students, and will support students' self-study according to their own goals and levels. In addition, in order to improve students' English language skills, we offer supplemental courses after school and during long vacations, as needed, and introduce them to websites that can help them with their language learning.

The IB courses offered at the school, the languages used in the classes, and the levels of instruction are listed in the table below.

Groups	IB Subjects	Languages	Levels
1 Language and Literature	Literature A	Japanese	HL/SL
2 Language Acquisition	English B	English	HL/SL
3 Individuals and Society	Environmental Systems and Society	English	SL
	History	Japanese	HL
4 Science	Chemistry	Japanese	HL/SL
	Physics	Japanese	HL
	Biology	Japanese	HL
5 Mathematics	Mathematics	Japanese	HL/SL

As alternatives to Group6, offer History, Physics, and Biology.

Native Language Support

The school's educational policy calls for the development of individuals who "nurture a spirit of philanthropy, respect different cultures and values, and live in harmony with people from all walks of life. We support students in establishing their identity through projects in their native language, exchanges with neighboring elementary and junior high schools, and cooperation with the local community. We also respect the cultural and historical backgrounds of languages, and strive to understand not only our own culture but also other cultures through all educational

activities, including geography, history, and civics classes and integrated inquiry time.

Language A and academic growth of native language

We understand that language is more than just a communication tool, but also plays an important role in nurturing students' creativity and richness of mind. In addition, since we are a Japanese school and the language of study and life for our students is Japanese, the program will be dual language, with Japanese as the language of instruction in Group 1 (language of the country where the program is introduced) Language A "Literature (HL/SL)" and in Groups 4 and 5. In Language A, all IB students take HL or SL, and through the study of literary works, etc., the program aims to enhance the students' literary background and sensitivity, as well as their ability to use their native language, by using a variety of tools to help them think logically, express themselves in appropriate language, and acquire the rich vocabulary they need to do so. We utilize a variety of tools to help students acquire the rich vocabulary necessary for these activities. In cooperation with the librarian, we have a system in place to provide students with access to a wide range of genres of literature necessary for writing reports and essays, and in some cases to the collections of outside libraries, including those of universities and other institutions.

Students whose native language is other than Japanese may choose to take Japanese A Literature (HL) if they can demonstrate the necessary level of Japanese comprehension.

Language B and foreign language education

We understand that language is an important tool for cross-cultural understanding, and all of our students study English as an international language. We expect that through this course, students will improve their communication skills, learn about foreign literature and cultures, and develop an attitude of respect for other cultures while shaping their own identity. By assigning native English speaking teachers and ALTs (Assistant Language Teachers), more students will be exposed to English and broaden their international perspectives. The school also actively involves students in exchange programs and study trips for cross-cultural exchange and understanding through programs provided by the Prefectural Board of Education. In addition, all students participate in overseas school trips (alternative programs depending on world conditions), providing opportunities to use English through experience.

Education and Training

Faculty and staff involved in the DP program will actively participate in language instruction. To this end, all faculty and staff, including administration, IB teachers, and librarians, meet regularly for friendly competition to enhance their pedagogical skills in language instruction.

The DP coordinator will ensure that faculty and staff have the opportunity to receive necessary IB training, attend seminars, or gather for cross-curricular training to deepen their understanding of language teaching and put it into practice in the classroom. Regular gatherings of faculty and staff to exchange and share information is essential and beneficial for planning and goal setting in order to deepen students' knowledge of language learning and understanding of teaching methods. Meetings and reviews of instructional planning and goal-setting for improving students' language skills are also held immediately after class and after school, as appropriate.

Learning Support, Library and Information Services

Our school will support student learning and teacher training by enabling students to acquire information literacy skills and by providing access to appropriate study materials, research assistance, and instruction on scholarly articles and academic integrity.

The library will prepare books, newspapers, magazines, etc. to support the DP program and make available a database containing printed materials, scholarly articles, and other research materials in Japanese and English. The library will also prepare and support materials to provide flexibility for students who are self-studying.

Librarians, native English speaking teachers and ALTs (Assistant Language Teachers) will be available to assist students as needed. The library is open from 8:00 a.m. to 4:40 p.m. on weekdays and may be used as a study room after closing until 6:00 p.m.

Community and parent participation and policy awareness

Our school is fully aware that education takes place outside the classroom. The community and parents are encouraged to play a community-wide role in supporting language learning by maintaining students' native language proficiency and by encouraging and supporting the use of foreign languages outside of school. The school will also actively utilize community resources.

The school will assist parents by providing materials explaining the language policy and other available resources in both Japanese and English. Materials will also be posted on the school's website and distributed to parents as needed.

Torahime High School students, parents, school personnel, and members of the surrounding community will have access to the language policy posted in both Japanese and English, and may contact the school, the coordinator, or TIBLO (Torahime IB Launch Office) to review and comment on any language policy revisions.

Course of Language Policy Review

The Torahime High School IBDP Language Policy was formulated by TIBLO members in 2018 and will be reviewed and revised annually. The Head of school will approve the proposed revisions by TIBLO.

References

- International Baccalaureate Organization (2017)
DP: From principles into practice
- International Baccalaureate Organization (2008)
Guidelines for developing a school language policy
- International Baccalaureate Organization (2008)
Learning in a language other than mother tongue